モノグラフ
中学生の世界
vol. 54

「規範感覚」と「いじめ」

目次

要　約 …… 2

プロローグ　テーマ設定の理由 …… 4

第1章　サンプルのプロフィール …… 6
1．親に依存する生活 …… 6
2．学校での暮らし …… 10

第2章　規範感覚の崩れ …… 16
1．「非行化の始まり」 …… 16
2．逸脱の体験率 …… 22
3．校則への感じ方 …… 34

第3章　いじめとの関連の中で …… 45
1．「いじめた」と「いじめられた」 …… 45
2．いじめと自己評価 …… 49
3．校則といじめ …… 59

資料1　調査票見本 …… 67
資料2　学年・性別集計表 …… 77

＊おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

『モノグラフ・中学生の世界』Vol.54

調査レポート

「規範感覚」と「いじめ」

深谷昌志（静岡大学教授）

要約

① 非行化の始まり

生徒たちは「学校でアメやガムを食べる」のが非行化の始まりと思っている。（p.17 図1、p.18 表14）

② 時系列の中での非行化

1989年と比べると、「制服の上着丈を直す」などを「非行化」と思う割合が減少している。（p.20 図2、p.21 表16）

③ 逸脱行為をしているか

「喫煙」や「万引き」などをしている生徒は少数にとどまっている。「学校に教科書を置いていく」や「リップクリームをつける」くらいである。（p.22 表17）

④ 時系列の中での逸脱行為

1989年と比べ、調査した17項目のほとんどの項目で、今回の方が逸脱行為の体験率が高まっていた。具体例をあげるなら、「ゲームセンターなどに行く」割合は1989年の17.6%から今回の39.3%へと2倍以上の伸びを示している。（p.26 図4、p.27 表19）

⑤ 悪い行為と体験

悪い行為と思っていることを生徒たちはしていない。そうした意味では、悪い意識が薄れると、生徒はその行為に走る。それだけに健全な規範意識が重要であろう。（p.30 図5）

⑥ 悪い行為の時系列

「飲酒」や「喫煙」「パーマ」などを悪いと思う気持ちが1989年より確実に減少している。（p.32 図6、p.33 表22）

⑦ 校則への気持ち

「男子の髪は丸刈り」や「女子の髪をしばるゴムは黒」などを除くと、生徒たちは多くの校則を「意味がないと思うが、一応は守る」と答えている。（p.39 表26）

⑧ 校則の時系列

1986年と比べ、「男子の髪は丸刈り」や、「女子の髪をしばるゴムは黒」などの校則を守るつもりが減少している。（p.43 図8、p.44 表29）

⑨　いじめの体験

「かなり」以上「いじめた体験がある」は7.2%（p.46 表31）、「いじめられた体験がある」が11.8%。（p.47 表32）

⑩　いじめの比率

全体の中で「いじめられた」ことがある生徒は10.1%、「いじめた」ことがある生徒は5.4%である。（p.48 図9、表34）

⑪　いじめと通学の楽しさ

いじめられている生徒は通学が楽しくないと言っている。（p.49 図10、p.50 表35）

⑫　いじめと自己発揮

いじめられている生徒も授業をがんばっているが、いじめている生徒は部活動や友だち関係で自己発揮していると思っている。（p.51 図11、p.52 表36）

⑬　いじめと将来への見通し

いじめている生徒は将来に明るい見通しを抱いているが、いじめられている生徒も仕事での活躍などに自信を持っている。（p.56 表38、p.57 図13）

⑭　いじめと生徒のタイプ

おおづかみにして、いじめている生徒は自己評価が明るく、未来に夢を抱くガキ大将タイプのように思われる。それに対し、いじめられている生徒は校則を守り、将来の職業に自信を持つまじめな努力家タイプのように思われる。（p.51 図11、p.54 図12、p.57 図13）

⑮　逸脱行為といじめ

いじめられている生徒も逸脱行為をしているが、いじめている生徒はそれ以上に逸脱行為を繰り返している。（p.60 表40、p.61 図14）

⑯　悪いことといじめ

いじめられている生徒は喫煙や飲酒を悪いと思う割合が高い。それに対し、いじめている生徒は悪いと思う割合が少ない。（p.62 表41、p.63 図15）

〔まとめ〕

1980年代と比べ、生徒たちの規範感覚は崩れてきている。校則などに対する批判的な傾向も目につく。なお、いじめられている生徒は規範感覚を持っているものの、行動レベルでは逸脱行為に走りやすい気弱なタイプである。それに対し、いじめているタイプは明るい自己評価を持ち、未来にも夢を抱くタイプだが、その反面、規範感覚が崩れ、逸脱行為を繰り返す生徒でもある。そうした意味ではいじめをなくすためには、健全な規範感覚を育てることが重要であろう。

〔調査概要〕

対象●東京・埼玉・神奈川の中学1～3年生
2,086名（男子1,086名、女子1,000名）
65クラスの生徒

時期●1996年2月～3月

方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル構成　（人）

	男子	女子	計
中1	328	327	655
中2	390	328	718
中3	368	345	713
計	1,086	1,000	2,086

プロローグ

テーマ設定の理由

生徒たちが変わってきたという。それでは実際に生徒たちは変わったのか。変化をとらえようとすると、時間の経過を追っての対比が必要になる。

たまたま1983年に中学生を対象として規範感覚などの調査を行った結果があり、現在でも、調査としての有効性を保持しているように思われた。そこで、1995年5月、同じ項目を使って調査を実施してみた。こうした形で1983年から1995年への12年の間に中学生の意識がどう変わったのかを調べたかった。

その結果は本モノグラフの「中学生は変わったのか」（Vol.51）に詳しいが、その中で、生徒たちの規範感覚が崩れているのを知り驚いた。具体例をあげてみよう。1983年では「鍵のついていない自転車を無断で借りて乗る」を「とても悪い」と思う生徒は65%であった。ところが1995年の結果ではそう感じる生徒が47%に低下している。また、「雨の日に、置いてあった他人のカサを黙って利用する」のが悪いと思う生徒は1983年の57%から1995年の42%へと減少している。さらに「他人の体育館ばきを無断で借用すること」を悪いと思う生徒の割合は49%

から25%への変化を示している。

この調査では、上記を含めて16項目を設問しているが、すべての項目で1995年の数値は1983年を下回った。

80年代の生徒たちも「子ども料金で電車に乗る」や「自転車の二人乗りをする」などのちょっとしたルール違反を犯していたと思う。しかし、「悪いことをしている」という感覚も持ちあわせていた。ところが、1995年になると、「悪い」と思う感覚が希薄になる。

鍵のかかっていない自転車の無断借用は「ちょっとした流用だから、堅苦しいことを言うな」、中学生が子ども料金で電車に乗っても「誰も損をしないから大目にみてほしい」と、現在の生徒たちは思っている。悪いことに対する感覚が多少麻痺してきたのであろうか。

規範感覚についてのこうした変化に、いじめ問題の底流をみる思いがする。他人をいじめるのは悪いことだ。そう感じつつ生徒たちが友だちいじめに加わっていると信じていた。しかし、悪いという感覚が希薄になったのだとしたら、生徒たちはいじめにそれほどの罪悪感を抱いていないのかもしれない。そうなると、善悪を判断する基準が崩壊しているので、悪いことを悪いと感じることなしに繰り返す可能性が強い。

いじめに耐えきれずに生徒が死を急いだとき、加害者の生徒たちがわりと平然とし、罪の意識が希薄なのに驚いたことがある。それと同時に、周囲の生徒たちもいじめに無関心で、トラブルに巻き込まれたくないとの態度をとっているのが気にかかった。そうした状況も規範感覚の崩れを視野に入れると理解しやすくなる。しかし、感覚が崩れていると、善悪の基準そのものを教える必要があり、それだけに問題への対応が深刻なように思われる。

そこで、規範感覚の崩れに注目しながら、いじめとの関連を検討しようとしたのが本レポートである。なお、いじめの分析には厳密な定義づけが必要と思われるが、ここでは、「いじめ」という言葉で生徒たちが連想する内容をそのまま利用することにした。したがって、ここでの「いじめ」は「ふざけ」ではないが、「いじめ非行」でもない「(やや) 悪質なふざけ」を意味するものであろう。そして、ここでは、そうしたいじめが生徒の規範感覚とどう関連するのかを検討したいと思っている。

第１章 サンプルのプロフィール

１．親に依存する生活 DDD

本モノグラフは中学生たちの規範感覚の変容を問題にしようとしている。詳しい結果の紹介に入る前に、サンプル（**表１**）の全体像を概観しておくことにしよう。

表２は部活動への参加状況を示した。「運動部に熱心に参加している」生徒は47.8％とほぼ半数に達する。部活動に入っていない生徒が「退部した」生徒を含めて１割強であることは、部活動が生徒の心に大きな意味を持っていることを示している。

表３は中学生の家庭での手伝いだが、「毎日のようにしている」のは「食器を並べる」くらいで、それも27.5％と、４分の１を超える程度である。**表４**の属性別の集計でも「毎日、食器を並べている」生徒は女子でも35.1％にとどまっている。食器洗いや洗濯物をしまう、ゴミ捨てをするなどはほとんどの生徒がしていない。親に頼りきった生活である。

表1　サンプルの構成

（人）

	男子	女子	計
中　1	328	327	655
中　2	390	328	718
中　3	368	345	713
計	1,086	1,000	2,086

表2　部活動

（%）

		全体	中1	中2	中3
運動部	熱心	47.8	52.6	46.1	45.1
	不熱心	20.0	21.8	26.2	12.1
文化部	熱心	9.2	8.2	8.3	10.9
	不熱心	6.7	4.6	7.6	7.8
参加したが退部		13.4	9.3	9.4	21.3
参加したことはない		2.9	3.5	2.4	2.8

表3　手伝い

（%）

	毎日	週3回くらい	週1回くらい	月1回くらい	今までに何回か	1度もない
食器を並べる	27.5	19.6	18.4	11.7	20.1	2.7
食器をしまう	12.0	14.0	19.7	19.3	29.0	6.0
洗濯物をとりこむ	11.4	15.4	21.2	22.1	25.0	4.9
洗濯物をたたむ	8.1	10.3	14.6	20.8	35.1	11.1
料理を手伝う	7.2	14.4	19.1	21.0	30.4	7.9
食器を洗う	6.7	11.1	20.7	25.2	32.3	4.0
ゴミを捨てにいく	6.6	10.5	18.7	24.8	34.0	5.4
米をとぐ	5.3	9.1	15.8	23.2	36.4	10.2

表4　毎日の手伝い × 属性

（%）

	全体	中1	中2	中3	男子	女子
食器を並べる	27.5	26.0	28.3	28.4	20.7	35.1
食器をしまう	12.0	9.7	13.7	12.4	11.1	13.0
洗濯物をとりこむ	11.4	9.7	11.7	12.6	8.5	14.5
洗濯物をたたむ	8.1	7.0	8.0	9.3	4.3	12.3
料理を手伝う	7.2	6.5	6.6	8.5	3.5	11.2
食器を洗う	6.7	6.8	7.4	5.9	4.4	9.2
ゴミを捨てにいく	6.6	7.5	7.0	5.5	7.4	5.8
米をとぐ	5.3	5.2	6.1	4.4	3.4	7.3

「毎日手伝う」割合

表5は身近な生活習慣について「自分でやれる年齢」を尋ねた結果である。生徒たちは「1人で起きる」や「机の整理整頓」くらいは「小学生の頃」できるようになったと答えている。生徒たちはそう思っているのであろうが、本モノグラフの他の結果によれば、親たちは生徒たちが身の回りの整頓ができないと答えている。

したがって、生徒たちの反応をそのまま信じるわけにはいかないが、**表6**のように、大半の生徒は親と仲睦まじく生活している。

表5　自分でやれる年齢

(%)

	小学8年の頃	小学卒業の頃	中学入学の頃	現在	高校入学の頃	高校卒業の頃	成人後
遅刻しないように気をつける	64.4	8.4	11.0	9.6	4.5	0.7	1.4
箸の持ち方に気をつける	64.1	14.0	5.8	7.0	2.6	1.0	5.5
1人で起きる	40.1	23.3	12.7	8.4	10.1	1.9	3.5
机の整理整頓をする	38.5	24.7	15.2	11.7	6.2	1.0	2.7
部屋の掃除をする	29.7	28.3	18.8	12.0	6.9	1.3	3.0
服装、髪型に気をつける	27.8	23.8	29.0	11.6	3.4	1.3	3.1
言葉遣いに気をつける	23.5	21.7	27.1	13.2	7.1	2.8	4.6

表6　親との関係

(%)

		うまくいっている			うまくいっていない		
		とても	かなり	やや	やや	あまり	ぜんぜん
全体		26.2	27.6	33.8	6.6	3.4	2.4
性	男子	22.0	26.7	37.9	6.9	3.7	2.8
	女子	30.9	28.5	29.3	6.3	3.0	2.0
学年	中1	27.8	29.4	31.8	5.9	3.4	1.7
	中2	25.9	27.0	34.1	6.5	3.5	3.0
	中3	25.1	26.4	35.4	7.4	3.1	2.6

2．学校での暮らし

生徒たちの学校に来る楽しさは**表7**に詳しい。「楽しい」と答える生徒は「かなり」を含めても4割弱で、楽しさに欠けると感じている生徒が少なくない。

そして、領域別に「自分らしさの発揮」を尋ねた**表8**でも、「授業のとき」に楽しいと思っている生徒がほとんどいないのがわかる。**表9**の属性分析を通しても、学年や性を超えて、生徒たちは「友だちがいるから学校へ行くのが楽しみ」と答えている。

中学ともなると勉強が難しくなるから、学校での学習が楽しみと言いにくいのは確かであろう。それだけに、学校での友だちの存在が大事になってくる。

表7　学校に通う楽しさ

（%）

		楽しい			ふつう	楽しくない		
		とても	かなり	やや		やや	あまり	ぜんぜん
全体		18.6	18.5	18.5	24.2	6.5	7.1	6.6
学年	中1	18.9	19.8	15.6	26.5	8.2	5.3	5.7
	中2	18.1	18.3	19.0	23.1	5.3	9.1	7.1
	中3	18.9	17.5	20.5	23.3	6.2	6.8	6.8
性	男子	15.7	17.8	20.0	24.4	6.1	7.4	8.6
	女子	21.8	19.2	16.8	24.3	6.9	6.7	4.3

表8　自分らしさの発揮

（%）

	発揮している			発揮していない	
	とてもよく	かなり	やや	あまり	ぜんぜん
授業のとき	5.2	9.7	33.6	35.9	15.6
部活動のとき	20.8	22.5	27.2	16.1	13.4
友だちといるとき	36.1	31.4	24.2	5.5	2.8
家庭にいるとき	27.7	24.6	25.8	13.8	8.1

表9　自分らしさの発揮 × 属性

（%）

	中1	中2	中3	男子	女子
授業のとき	18.5	14.4	12.0	21.3	7.9
部活動のとき	45.8	40.8	43.6	47.1	39.1
友だちといるとき	69.3	64.8	68.4	62.0	73.4
家庭にいるとき	56.2	49.4	51.5	42.2	63.3

「とてもよく」＋「かなり」発揮している割合

表10の自己評価によれば、勉強の成績は今ひとつ、運動神経もやや乏しいかもしれない。それに、生徒たちは多少反抗的かもしれないが、友だちもまあまあいるし、非行化したり、ツッパったりしてはいない。

だから、明るい中学生とは言えないかもしれないし、自分に自信も持っていないが、まじめな中学生のつもりという。そして、中学生は将来の進路として、難関大学進学は無理としても、可能ならば「4年制大学、もしくは短大に入りたい」と願っている（**表11**）。

表10　自己評価

（%）

	そう思う		そう思わない	
	とても	少し	あまり	ぜんぜん
家族が好き	27.0	35.8	25.0	12.2
友だちがたくさんいる	19.9	37.3	32.5	10.3
反抗的	16.5	42.3	28.9	12.3
ユーモアのセンスがある	10.4	18.9	45.6	25.1
運動神経がすぐれている	10.3	25.7	40.4	23.6
仲間から信頼されている	7.0	29.5	46.8	16.7
成績がよい	5.4	14.8	36.7	43.1
よく勉強している	5.0	11.9	40.9	42.2
校則をよく守っている	14.7	37.6	37.0	10.7
クラスの人気者	4.1	7.9	48.0	40.0
カッコつけている	3.7	10.7	42.5	43.1
異性に好まれるタイプ	3.6	7.4	43.8	45.2
少しツッパっている	1.7	7.1	39.2	52.0
非行化している	1.7	4.8	27.3	66.2
不良っぽい	1.3	4.0	30.0	64.7

表11　将来の進路

(%)

		中学	高校	短大	4年制大学	難関大学
全体		1.4	24.6	30.2	32.0	11.8
学年	中1	1.1	30.3	31.1	28.7	8.8
	中2	2.3	24.8	28.4	34.7	9.8
	中3	0.9	19.1	31.2	32.1	16.7
性	男子	1.9	27.4	19.1	35.7	15.9
	女子	0.9	21.5	42.2	28.0	7.4
いじめられた	何度もある	4.0	19.0	38.0	28.0	11.0
	少しある	1.3	24.7	32.3	30.0	11.7
	まったくない	1.3	26.7	28.3	31.1	12.6

なお、将来に対する見通しを尋ねた**表12**によれば、生徒たちの未来像が暗く閉ざされているのがわかる。

・「きっと」と「かなり」可能が3割以上

① 老後、幸せに暮らせる　40.4%

② 幸せな家庭生活を送れる　32.5%

・「きっと」と「かなり」可能が2割以下

① 社会的に尊敬される　12.6%

② 金持ちになれる　14.4%

③ 望みの大学進学　15.1%

④ 有名になれる　15.5%

社会的に尊敬されたり、有名になったりす

表12　将来の見通し

(%)

	無理			できる		
	とても	かなり	やや	やや	かなり	きっと
望みの高校進学	7.1	9.0	23.3	31.8	8.1	20.7
望みの大学進学	17.9	13.5	26.7	26.8	3.8	11.3
望みの仕事につける	8.0	10.5	26.2	32.6	5.9	16.8
理想的な人と結婚できる	14.6	11.1	26.9	23.8	5.7	17.9
幸せな家庭生活を送れる	7.9	6.7	16.9	36.0	10.3	22.2
仕事で大活躍する	8.2	8.6	25.4	32.5	8.3	17.0
有名になれる	29.5	21.1	23.9	10.0	2.7	12.8
金持ちになれる	22.2	20.8	29.1	13.5	3.1	11.3
社会的に尊敬される	25.3	21.3	28.2	12.6	2.3	10.3
老後、幸せに暮らせる	8.3	6.2	14.0	31.1	8.2	32.2

ることはないかもしれない。しかし、幸せな家庭生活は送れるつもりというのが、多くの中学生の未来像になる。そして、**表13**に示すように、中学3年になると、進学関係の見通しに自信が芽生えてくるが、その他の面では属性による開きは感じられない。

いずれにせよ、中学生たちは学校がそれほど楽しくない上に、将来に自信を持てないという閉ざされた状況下にあるように思える。

表13　将来の見通し × 属性

(%)

	中1	中2	中3	男子	女子
望みの高校進学	18.0	18.9	49.1	31.5	26.2
望みの大学進学	10.3	14.1	20.5	17.5	12.6
望みの仕事につける	19.7	19.6	28.4	26.1	19.0
理想的な人と結婚できる	21.0	23.4	26.5	24.8	22.5
幸せな家庭生活を送れる	30.1	30.7	36.5	32.4	32.6
仕事で大活躍する	23.8	21.9	30.0	30.6	19.5
有名になれる	12.7	17.6	16.0	21.2	9.4
金持ちになれる	11.1	17.3	14.6	18.1	10.4
社会的に尊敬される	10.8	14.5	12.4	17.5	7.4
老後、幸せに暮らせる	38.2	40.7	41.9	41.0	39.6

「かなり」＋「きっと」できる割合

第２章 規範感覚の崩れ

１．「非行化の始まり」DDD

中学生たちが変わってきたといわれる。若者が変わるのはどの時代にもあてはまる傾向であろうが、その中でも、生徒たちが自信を失うとともに自分らしい生き方を見失っているような印象を受ける。

それでは、生徒たちの規範感覚は崩れているのであろうか。**図１（表14）**が示すように、「靴のかかとをつぶしてはく」や「遅刻が多い」などは非行に関係しない。非行に連なる行為は「学校でアメやガムを食べる」だと生徒は思っている。

図1　非行化の始まり

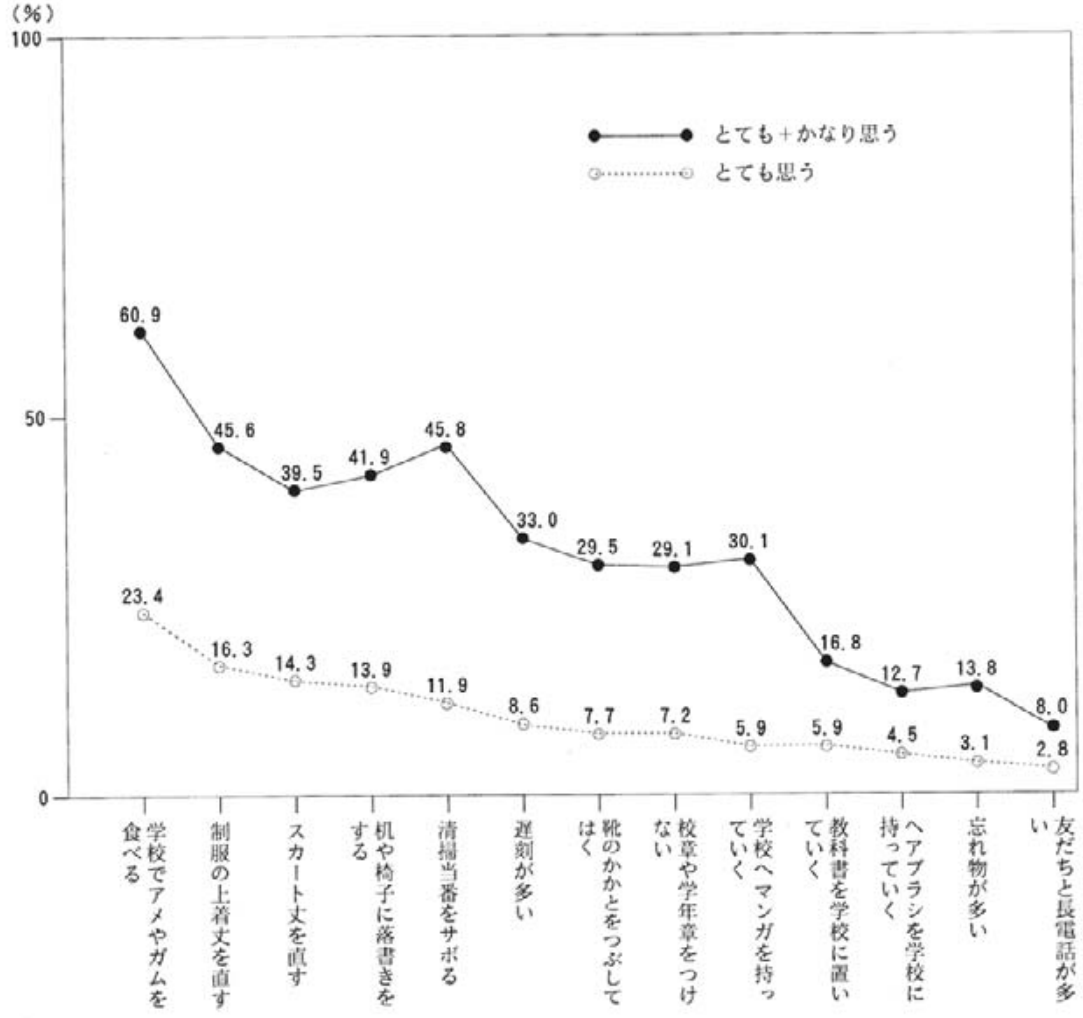

(%)
100
50
0
とても＋かなり思う
とても思う
60.9
45.6
39.5
41.9
45.8
33.0
29.5
29.1
30.1
16.8
12.7
13.8
8.0
23.4
16.3
14.3
13.9
11.9
8.6
7.7
7.2
5.9
5.9
4.5
3.1
2.8
学校でアメやガムを食べる
制服の上着丈を直す
スカート丈を直す
机や椅子に落書きをする
清掃当番をサボる
遅刻が多い
靴のかかとをつぶしてはく
校章や学年章をつけない
学校へマンガを持っていく
教科書を学校に置いていく
ヘアブラシを学校に持っていく
忘れ物が多い
友だちと長電話が多い

表14　非行化の始まり

(%)

	思う		思わない	
	とても	かなり	あまり	まったく
学校でアメやガムを食べる	23.4	37.5	24.4	14.7
制服の上着丈を直す	16.3	29.3	32.3	22.1
スカート丈を直す	14.3	25.2	38.5	22.0
机や椅子に落書きをする	13.9	28.0	38.8	19.3
清掃当番をサボる	11.9	33.9	37.3	16.9
遅刻が多い	8.6	24.4	40.5	26.5
靴のかかとをつぶしてはく	7.7	21.8	41.3	29.2
校章や学年章をつけない	7.2	21.9	43.7	27.2
学校へマンガを持っていく	5.9	24.2	45.3	24.6
教科書を学校に置いていく	5.9	10.9	41.2	42.0
ヘアブラシを学校へ持っていく	4.5	8.2	34.7	52.6
忘れ物が多い	3.1	10.7	47.5	38.7
友だちと長電話が多い	2.8	5.2	35.2	56.8

なお、属性別に分析した**表15**によれば、特定の行為を「非行化の始まり」と思う割合は女子よりも男子の方が多い。また、学年別にみると、中1の方が非行と感じる割合が高く、中3になるにつれ、非行と思わない割合が増す。

中3になると、非行と思わない傾向が強い項目は以下の通りである。

	中1 (A)	中3 (B)	割合 (B／A)
・忘れ物が多い	20.5%	7.5%	36.6%
・ヘアブラシを学校へ持っていく	16.1%	8.4%	52.2%
・学校へマンガを持っていく	39.7%	23.1%	58.2%
・教科書を学校に置いていく	19.6%	12.5%	63.8%
・校章をつけない	36.7%	23.8%	64.9%

（「とても」＋「かなり」思う割合）

たしかに「忘れ物が多い」や「ヘアブラシを学校へ持っていく」などは、中1はともあれ、中3になれば、非行と思えなくても当然であろう。したがって、学年が上がるにつれて、非行感覚が麻痺したとみるのは必要ないように思われる。

表15　非行化の始まり × 属性

（%）

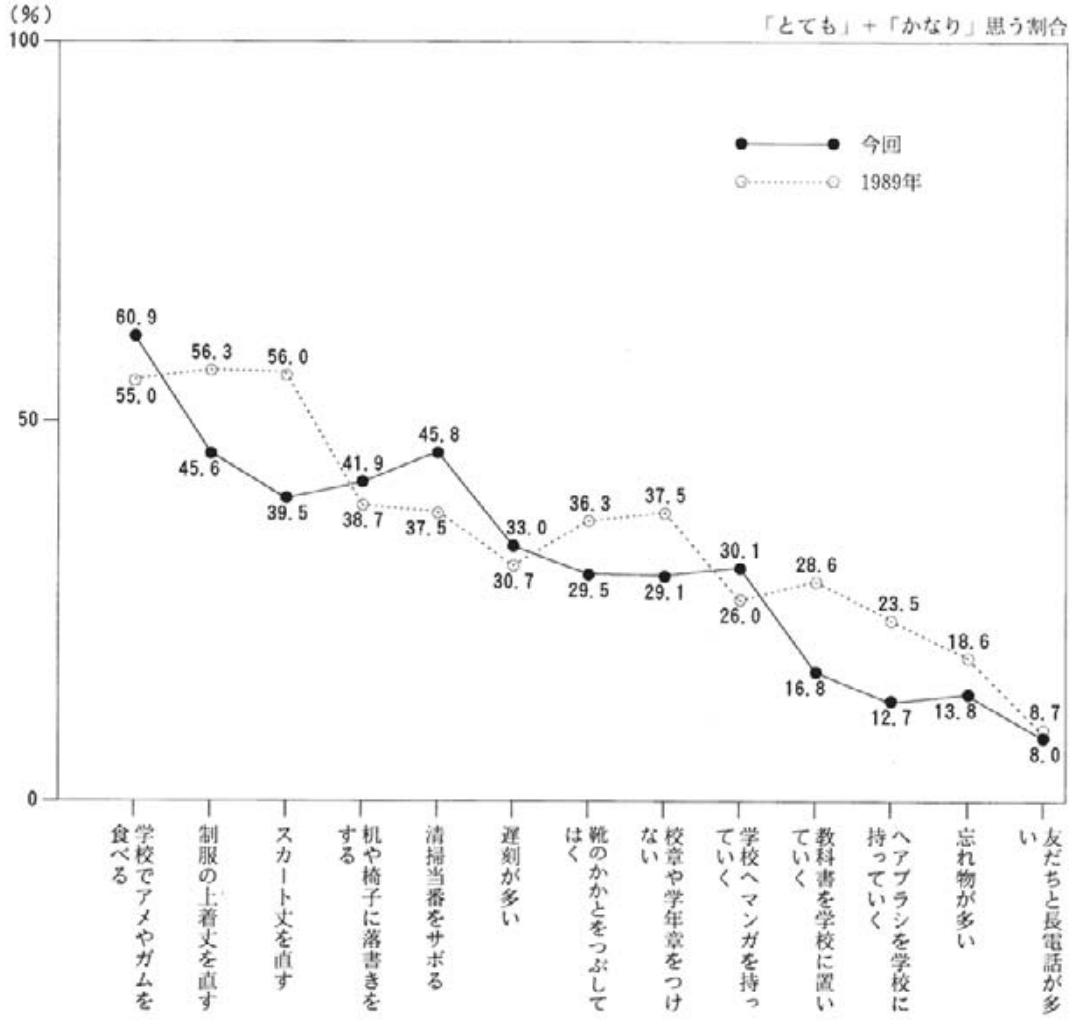
	全体	男子	女子	中1	中2	中3
学校でアメやガムを食べる	60.9	61.0	60.8	# 66.1	59.5	57.4
制服の上着丈を直す	45.6	＊48.9	42.1	44.5	45.5	46.8
スカート丈を直す	39.5	＊42.7	36.3	# 42.9	40.4	35.6
机や椅子に落書きをする	41.9	＊44.4	39.1	# 46.5	42.1	37.3
清掃当番をサボる	45.8	46.7	45.0	##53.3	44.9	39.8
遅刻が多い	33.0	32.8	33.4	# 37.1	32.6	29.8
靴のかかとをつぶしてはく	29.5	27.7	31.3	# 30.6	29.3	28.4
校章や学年章をつけない	29.1	28.3	30.1	##36.7	27.6	23.8
学校へマンガを持っていく	30.1	＊33.8	26.1	##39.7	28.3	23.1
教科書を学校に置いていく	16.8	18.1	15.3	# 19.6	18.4	12.5
ヘアブラシを学校へ持っていく	12.7	＊15.7	9.5	# 16.1	13.9	8.4
忘れ物が多い	13.8	15.6	11.9	##20.5	14.2	7.5
友だちと長電話が多い	8.0	7.2	8.8	# 9.2	8.9	6.0

「とても」＋「かなり」思う割合
＊は5%以上多い　#は中1＞中2＞中3　##は中1＞中3が10%以上

それでは、生徒たちの非行感覚はひと昔前と比べ変化しているのか。実をいうと、1989年に表14と同じ項目を使った調査を実施している。その結果は、「前非行（2）」（本モノグラフVol. 34）に収録されているが、今回と先回との結果を対比させると、**図2（表16）**の通りとなる。

図から明らかなように、「掃除当番をサボ

図2　非行化の始まり × 時系列



る」や「学校でアメやガムを食べる」などは以前より「非行化」と感じる割合が多い。しかし、図中の13項目のうち、現在の方が数値が高いのは5項目で、「スカート丈を直す」や「教科書を学校に置いていく」などの8項目は現在の方が数値が低い。それだけ、昔は非行化と思っていたことでも、現在では非行化と思うことが減少しているのであろう。

表16　非行化の始まり × 時系列

（%）

	1989年			今回（B）	差（A）−（B）
	とても思う	かなり思う	小計（A）		
学校でアメやガムを食べる	22.4	32.6	55.0	＊60.9	− 5.9
制服の上着丈を直す	25.9	30.4	＊56.3	45.6	10.7
スカート丈を直す	26.0	30.0	＊56.0	39.5	16.5
机や椅子に落書きをする	11.4	27.3	38.7	41.9	− 3.2
清掃当番をサボる	8.4	29.1	37.5	＊45.8	− 8.3
遅刻が多い	8.4	22.3	30.7	33.0	− 2.3
靴のかかとをつぶしてはく	9.9	26.4	＊36.3	29.5	6.8
校章や学年章をつけない	11.5	26.0	＊37.5	29.1	8.4
学校へマンガを持っていく	5.7	20.3	26.0	30.1	− 4.1
教科書を学校に置いていく	8.2	20.4	＊28.6	16.8	11.8
ヘアブラシを学校へ持っていく	7.5	16.0	＊23.5	12.7	10.8
忘れ物が多い	3.3	15.3	＊18.6	13.8	4.8
友だちと長電話が多い	2.6	6.1	8.7	8.0	0.7

「とても」＋「かなり」思う割合
＊は5%以上多い

2．逸脱の体験率 DDD

しかし、図1は「非行化と思う」かどうかで、本人が非行化しているかどうかと関係はない。そこで、逸脱行為と思われる行為をしたことがあるかを尋ねてみた。

表17に示したように、「いつもしている」割合が3割前後になる項目は「学校に教科書

表17　逸脱行為の体験

（%）

	いつもしている	ときどきしている	今までに3～4回ある	今までに1～2回ある	ぜんぜんない
学校に教科書を置いていく	32.8	20.1	8.2	12.4	26.5
リップクリームをつける	29.7	32.1	7.5	6.5	24.2
靴のかかとをつぶしてはく	8.0	24.1	8.3	15.5	44.1
ゲームセンターなどに行く	3.9	35.4	22.1	19.4	19.2
カバンなどにシールをはる	2.1	4.9	5.8	12.2	75.0
きまりより太いズボンをはく	2.1	1.4	1.3	1.9	93.3
学校へマンガを持っていく	1.9	18.6	15.3	20.6	43.6
うすいマニキュアをぬる	1.7	11.6	9.6	10.9	66.2
用もないのに保健室にいる	1.1	6.1	5.8	11.1	75.9
家で酒を飲む	1.0	12.0	10.5	18.4	58.1
深夜に盛り場をふらつく	0.7	5.2	5.6	10.5	78.0
他人のカサを黙って使う	0.7	1.2	1.0	3.7	93.4
タバコをすう	0.5	1.2	3.4	7.1	87.8
他人の自転車に黙って乗る	0.2	1.4	1.4	4.3	92.7
万引きをする	0.2	0.7	3.1	7.3	88.7
バイクの無免許運転をする	0.1	0.8	1.0	2.4	95.7
部分的にパーマをかける	0.1	0.4	0.7	2.4	96.4

を置いていく」と「リップクリームをつける」くらいで、「ぜんぜんない」が7割以上に達する項目は17項目の中で10項目である。そうした意味では、「万引き」や「喫煙」などをしている生徒はかなり少数のように思われる。

そして、**表18**の属性分析によれば、項目によっては男子より女子の方が体験率が高い項目がみられる。さらに学年別では、**図3**にまとめたように、全体として、中1より中3の方が逸脱行為をしている割合が高い。

もちろん、学年が上がるにつれて、悪いことをする割合が高まるのは人の成長というものであろう。したがって、好ましいという気はないが、図3の傾向はやむを得ないような感じもする。

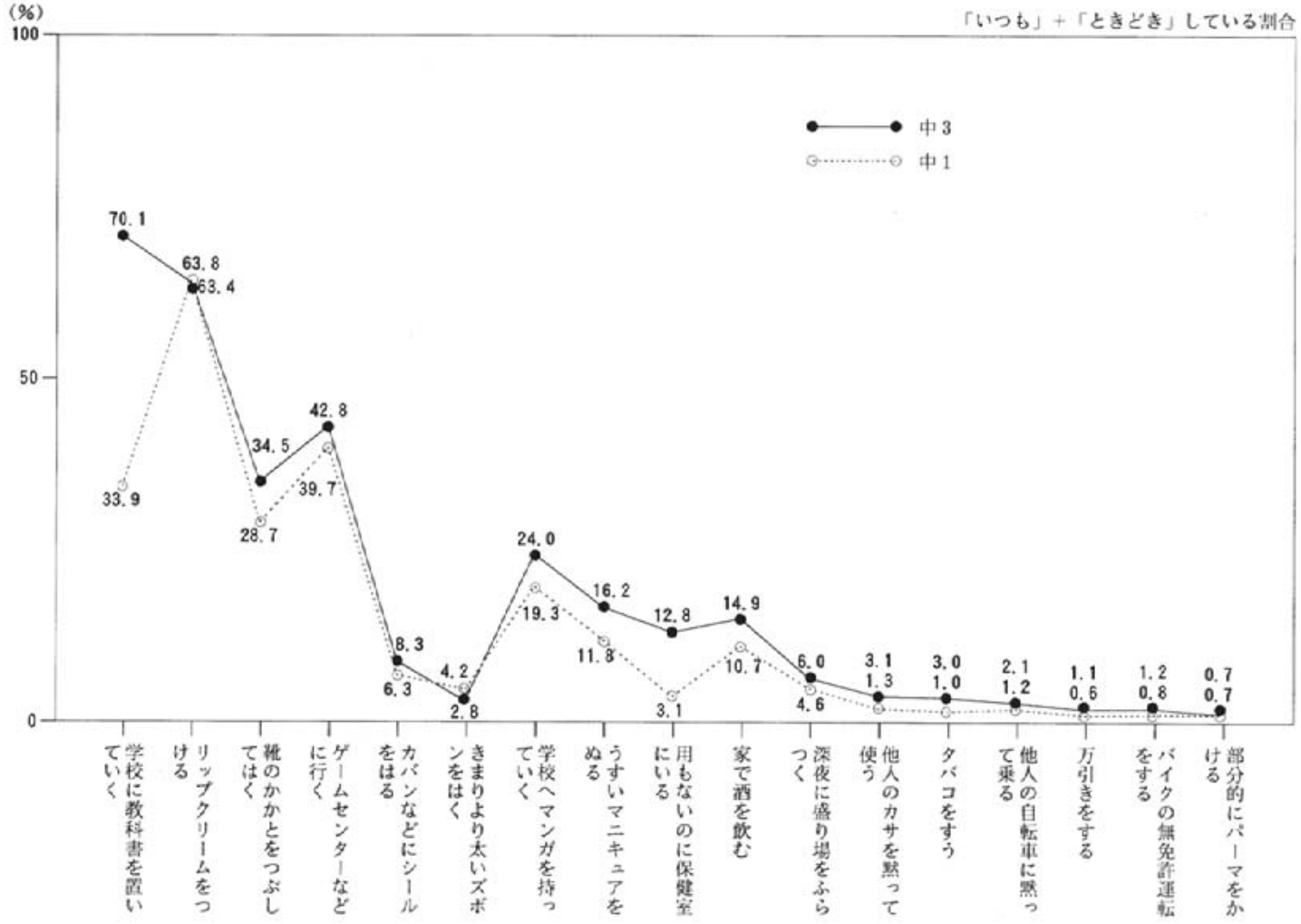
表18　逸脱行為の体験 × 属性

(%)

	全体	男子	女子	中1	中2	中3
学校に教科書を置いていく	52.9	47.6	＊58.8	33.9	53.3	$70.1
リップクリームをつける	61.8	36.6	＊89.2	63.8	58.6	63.4
靴のかかとをつぶしてはく	32.1	＊44.6	18.6	28.7	32.7	$34.5
ゲームセンターなどに行く	39.3	＊53.6	23.7	39.7	35.3	42.8
カバンなどにシールをはる	7.0	3.6	＊10.8	6.3	6.4	$ 8.3
きまりより太いズボンをはく	3.5	5.3	1.4	4.2	3.6	2.8
学校へマンガを持っていく	20.5	14.0	＊27.6	19.3	18.0	24.0
うすいマニキュアをぬる	13.3	0.9	＊26.7	11.8	11.9	$16.2
用もないのに保健室にいる	7.2	6.9	7.5	3.1	5.5	$12.8
家で酒を飲む	13.0	14.1	11.8	10.7	13.3	$14.9
深夜に盛り場をふらつく	5.9	7.3	4.2	4.6	6.7	6.0
他人のカサを黙って使う	1.9	3.2	0.5	1.3	1.3	3.1
タバコをすう	1.7	2.5	0.9	1.0	1.2	$ 3.0
他人の自転車に黙って乗る	1.6	2.2	1.0	1.2	1.4	$ 2.1
万引きをする	0.9	1.6	0.2	0.6	0.9	$ 1.1
バイクの無免許運転をする	0.9	1.4	0.3	0.8	0.5	1.2
部分的にパーマをかける	0.5	0.5	0.5	0.7	0.1	0.7

「いつも」＋「ときどき」している割合
＊は5%以上多い　$は中1＜中2＜中3

図3　逸脱行為の体験 × 学年



そこで、「非行の始まり」と同じように、1989年の調査データと対比させて、逸脱行為の体験を調べると、**図4**（**表19**）に示したように、17項目のほとんどの項目で、今回の方が体験率が高まっている。中でも、「リップクリームをつける」や「ゲームセンターなどに行く」「靴のかかとをつぶしてはく」などの体験率が高まっているのが目につく。

	1989年（A）	今回（B）	差（B－A）
・リップクリームをつける	27.0%	61.8%	34.8%
・学校に教科書を置いていく	25.9%	52.9%	27.0%
・ゲームセンターなどに行く	17.6%	39.3%	21.7%
・靴のかかとをつぶしてはく	24.2%	32.1%	7.9%

（「いつも」＋「ときどき」している割合）

このようにみてくると、中学生たちの逸脱行為は心配するほど増加はしていない。しかし、1989年と比べると、逸脱行為の体験率は確実に増加している。

図4　逸脱行為の体験 × 時系列

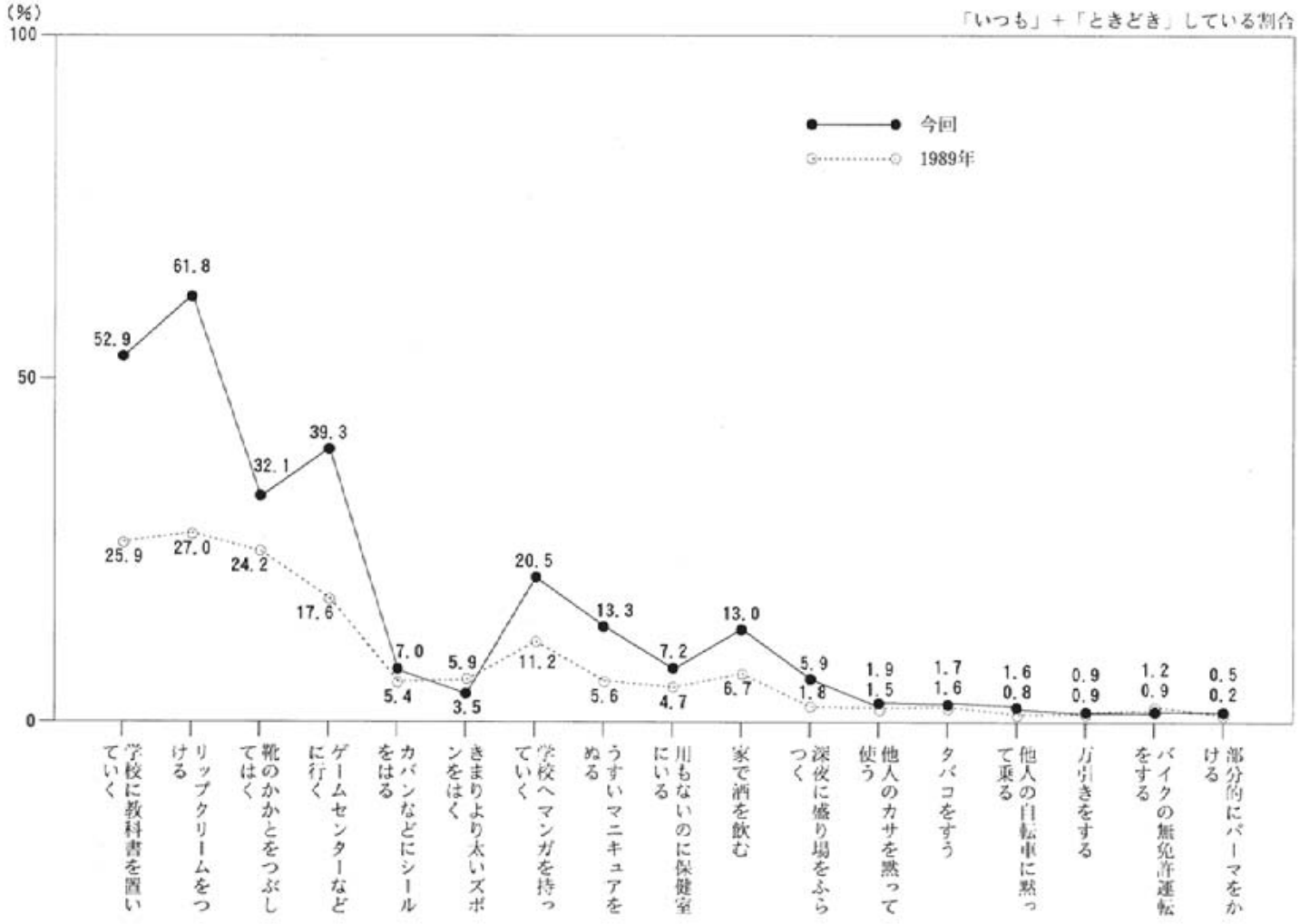


表19　逸脱行為の体験 × 時系列

(%)

	1989年			今回
	いつも している	ときどき している	小計	
学校に教科書を置いていく	11.3	14.6	25.9	＊52.9
リップクリームをつける	2.8	24.2	27.0	＊61.8
靴のかかとをつぶしてはく	5.1	19.1	24.2	＊32.1
ゲームセンターなどに行く	1.8	15.8	17.6	＊39.3
カバンなどにシールをはる	2.7	2.7	5.4	7.0
きまりより太いズボンをはく	2.3	3.6	5.9	3.5
学校へマンガを持っていく	0.6	10.6	11.2	＊20.5
うすいマニキュアをぬる	0.5	5.1	5.6	＊13.3
用もないのに保健室にいる	1.1	3.6	4.7	7.2
家で酒を飲む	0.9	5.8	6.7	＊13.0
深夜に盛り場をふらつく	0.3	1.5	1.8	5.9
他人のカサを黙って使う	0.4	1.1	1.5	1.9
タバコをすう	0.5	1.1	1.6	1.7
他人の自転車に黙って乗る	0.5	0.3	0.8	1.6
万引きをする	0.2	0.7	0.9	0.9
バイクの無免許運転をする	0.4	0.8	1.2	0.9
部分的にパーマをかける	0.1	0.1	0.2	0.5

「いつも」＋「ときどき」している割合
＊は5%以上多い

それでは、生徒たちは逸脱行為について、「中学生として悪いこと」と思っているのであろうか。**表20**に示したように、「万引き」や「喫煙」「無免許運転」などについては6割以上が「とても悪い」と思い、「かなり」を含めると8～9割が悪い行為だとみなしている。

そこで、表17と表20とを1つに組み合わせると、**図5**のような対比が得られる。生徒たちは「万引きをする」のような「悪い」と思っていることはしていない。しかし、「学校に教科書を置いていく」のように「あまり悪くない」と思っていることは体験をしている割合が高まる。つまり、悪いと思う気持ちが薄れると、生徒はそうした行為に走ることになる。

そうした意味では、善悪の感覚を生徒たちにきちんと植えつけることが重要であろう。なお、「中学生として悪いか」を属性別に分析すると、**表21**のように、ほとんどの項目で中1から中2、そして中3になるにつれて、悪いと思う割合が減少していく。繰り返しになるが、学年が上がるにつれて悪いと感じる割合が減少するのは仕方がないと思う反面、どの程度まで崩れていたら、規範感覚が歪んでいるといえるのか、規範をとらえる基準が欲しい気がする。

なお、「中学生として悪いこと」を時系列を追って確かめると、**図6**（**表22**）の通りとなる。1989年と比べ、「飲酒」や「喫煙」「深夜に盛り場をふらつく」「パーマ」などを悪いと感じる割合が低下している。

	1989年	今回	差
	（A）	（B）	（A－B）
・学校で喫煙	83.1%	76.7%	6.4%
・家で飲酒	55.1%	38.1%	17.0%
・深夜に盛り場	59.4%	37.3%	22.1%

（「とても悪い」割合）

上記の数値をみると、やはり規範感覚が崩れてきたのかという気持ちが強まってくる。

表20　中学生として悪いか

（%）

	悪い			悪くない	
	とても	かなり	少し	あまり	ぜんぜん
万引きをする	82.3	11.0	3.3	0.9	2.5
学校でタバコをすう	76.7	13.0	5.4	1.5	3.4
バイクの無免許運転をする	71.4	15.5	7.1	2.2	3.8
家でタバコをすう	65.2	17.5	9.7	2.7	4.9
他人の自転車に黙って乗る	62.1	23.3	9.9	1.6	3.1
友だちの家で酒を飲む	53.0	20.4	13.9	6.9	5.8
他人のカサを黙って使う	51.8	30.3	12.9	2.3	2.7
家で酒を飲む	38.1	21.0	19.2	12.7	9.0
深夜に盛り場をふらつく	37.3	25.7	20.2	9.0	7.8
部分的にパーマをかける	19.9	25.2	28.5	14.3	12.1
きまりより太いズボンをはく	13.4	20.1	31.0	19.8	15.7
学校へマンガを持っていく	10.7	19.6	37.2	19.4	13.1
用もないのに保健室にいる	8.4	16.0	34.4	25.0	16.2
ゲームセンターなどに行く	8.0	11.4	24.4	28.9	27.3
うすいマニキュアをぬる	6.7	12.9	34.6	25.5	20.3
靴のかかとをつぶしてはく	5.6	10.3	32.6	27.8	23.7
カバンなどにシールをはる	3.3	3.7	19.5	33.4	40.1
学校に教科書を置いていく	2.5	4.8	23.7	33.2	35.8
リップクリームをつける	1.5	1.2	5.2	16.4	75.7

図5　悪い行為と体験

注）「学校でタバコをすう」「家でタバコをすう」の「いつもしている」割合については、表17では「タバコをすう」の数値

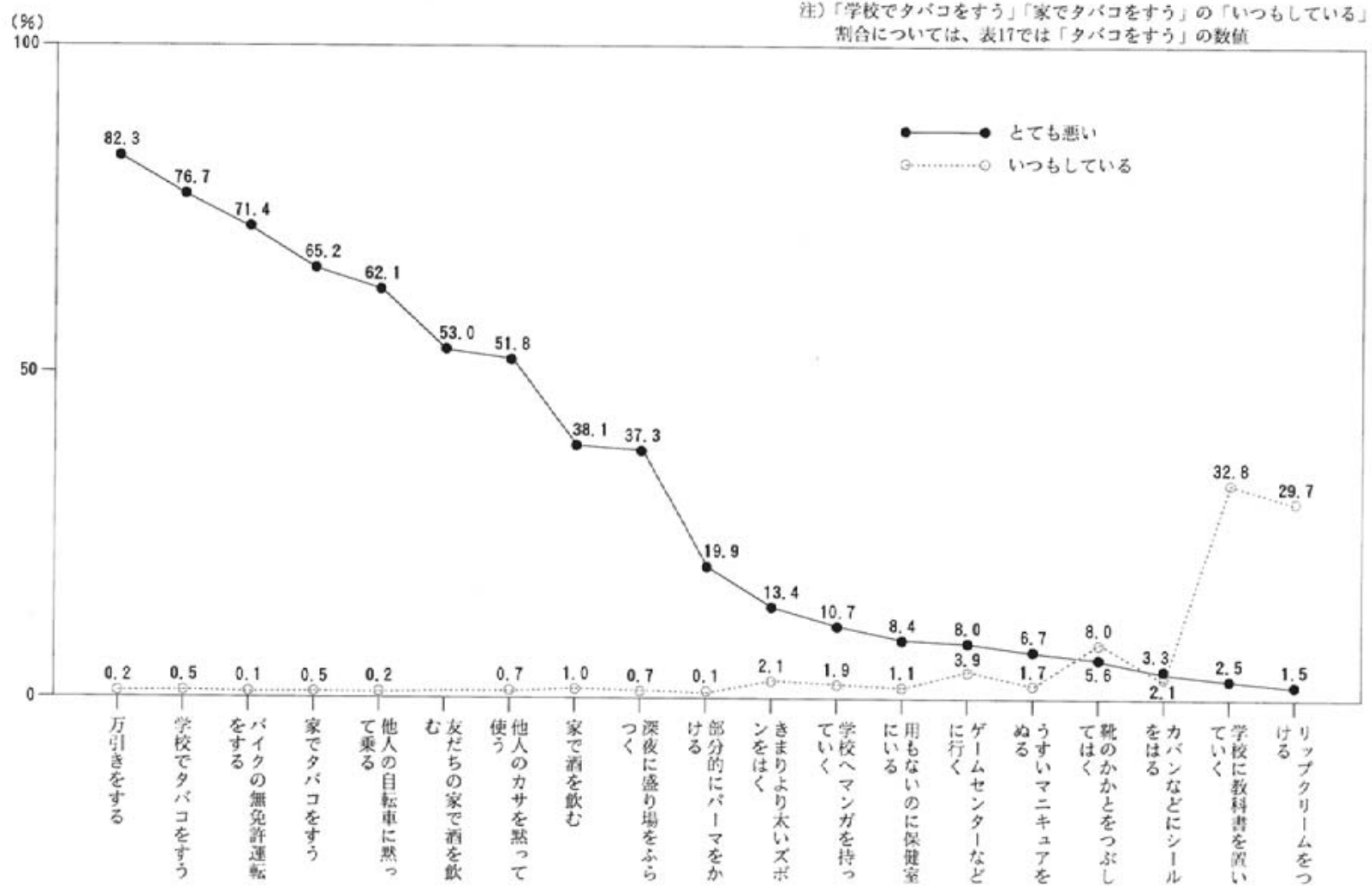


表21　中学生として悪いか × 属性

（%）

	全体	男子	女子	中1	中2	中3
万引きをする	82.3	80.0	84.9	80.8	83.6	82.4
学校でタバコをすう	76.7	76.0	77.4	#78.5	77.3	74.4
バイクの無免許運転をする	71.4	68.7	*74.4	#74.0	70.9	69.4
家でタバコをすう	65.2	64.8	65.5	#68.6	66.7	60.2
他人の自転車に黙って乗る	62.1	58.0	*66.4	58.9	64.4	62.5
友だちの家で酒を飲む	53.0	50.9	55.0	#59.0	54.9	45.4
他人のカサを黙って使う	51.8	46.1	*58.0	49.4	57.0	48.4
家で酒を飲む	38.1	38.5	37.6	#42.4	39.5	32.6
深夜に盛り場をふらつく	37.3	34.8	*40.0	#40.7	39.0	32.1
部分的にパーマをかける	19.9	19.6	20.2	20.0	21.5	18.1
きまりより太いズボンをはく	13.4	13.5	13.3	11.4	15.8	12.8
学校へマンガを持っていく	10.7	*14.0	7.2	#14.1	11.6	6.6
用もないのに保健室にいる	8.4	9.4	7.2	10.0	10.1	5.2
ゲームセンターなどに行く	8.0	7.6	8.5	9.5	10.1	4.5
うすいマニキュアをぬる	6.7	* 9.2	4.0	# 7.8	7.4	4.9
靴のかかとをつぶしてはく	5.6	5.5	5.7	5.1	5.9	5.8
カバンなどにシールをはる	3.3	4.8	1.7	2.9	4.2	2.8
学校に教科書を置いていく	2.5	3.5	1.4	2.3	3.6	1.6
リップクリームをつける	1.5	2.8	0.1	1.1	2.4	1.0

「とても悪い」割合
＊は5%以上多い　#は中1＞中2＞中3

図6　中学生として悪いか × 時系列

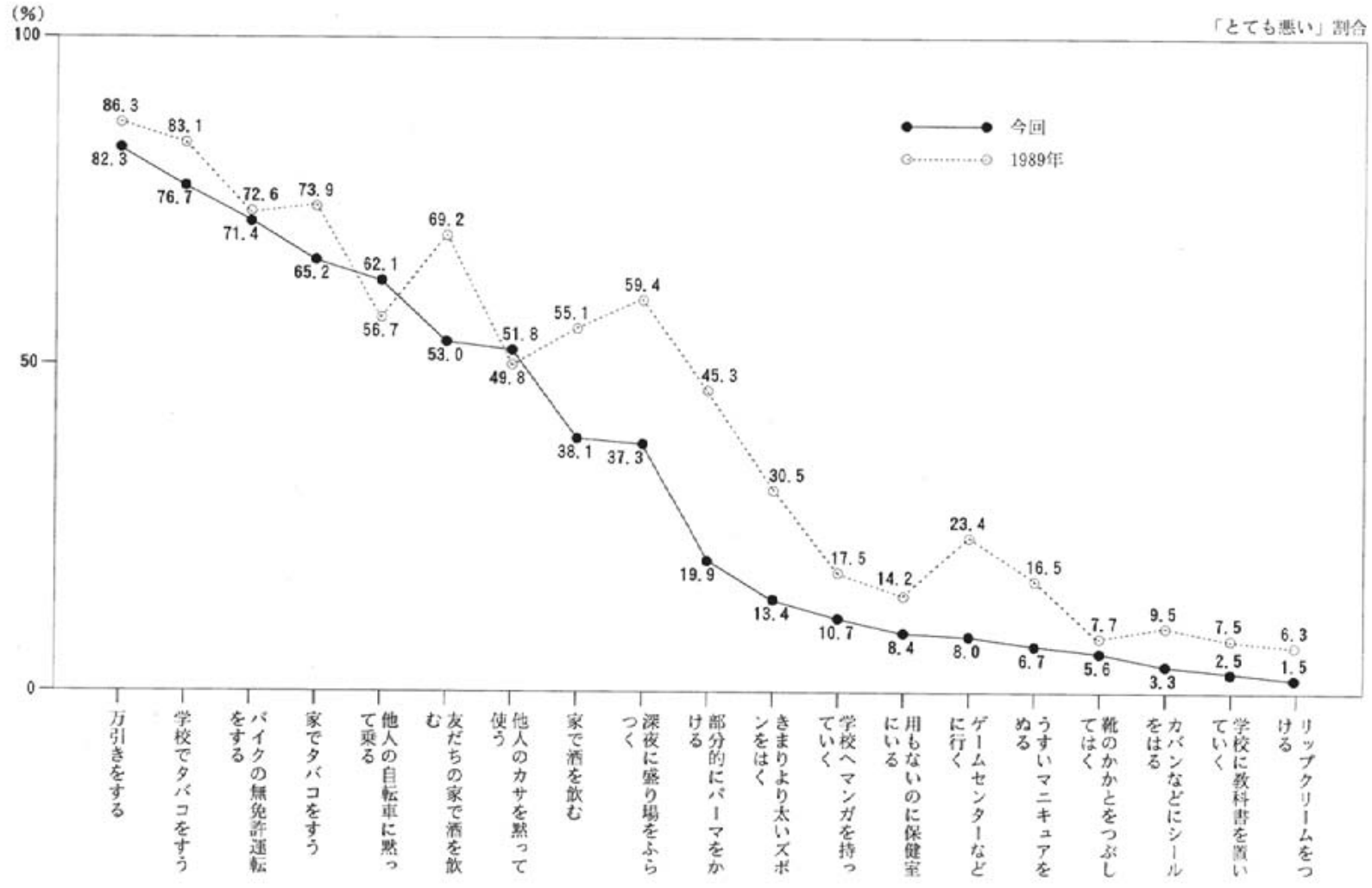


表22　中学生として悪いか × 時系列

（%）

	とても悪い		悪くない（あまり＋ぜんぜん）	
	1989年	今回	1989年	今回
万引きをする	86.3	82.3	2.7	3.4
学校でタバコをすう	＊83.1	76.7	3.1	4.9
バイクの無免許運転をする	72.6	71.4	4.9	6.0
家でタバコをすう	＊73.9	65.2	4.8	7.6
他人の自転車に黙って乗る	56.7	＊62.1	5.2	4.7
友だちの家で酒を飲む	＊69.2	53.0	5.8	＊12.7
他人のカサを黙って使う	49.8	51.8	5.6	5.0
家で酒を飲む	＊55.1	38.1	11.0	＊21.7
深夜に盛り場をふらつく	＊59.4	37.3	7.3	＊16.8
部分的にパーマをかける	＊45.3	19.9	10.6	＊26.4
きまりより太いズボンをはく	＊30.5	13.4	16.9	＊35.5
学校へマンガを持っていく	＊17.5	10.7	25.7	＊32.5
用もないのに保健室にいる	＊14.2	8.4	30.5	＊41.2
ゲームセンターなどに行く	＊23.4	8.0	30.5	＊56.2
うすいマニキュアをぬる	＊16.5	6.7	25.0	＊45.8
靴のかかとをつぶしてはく	7.7	5.6	38.2	＊51.5
カバンなどにシールをはる	＊ 9.5	3.3	43.1	＊73.5
学校に教科書を置いていく	＊ 7.5	2.5	44.0	＊69.0
リップクリームをつける	6.3	1.5	70.8	＊92.1

＊は5%以上多い

3．校則への感じ方

それでは、生徒たちは自分はともあれ、友だちがしていることに悪いという感じを持っているのだろうか。**表23**によれば、「他人のカサを無断でさして帰る」や「放置してある他人の自転車に乗る」を「とても悪い」と思っている生徒は5割強にすぎない。「悪いがその程度は少しくらい」を含めて、たいして悪くないと思っている生徒はほぼ2割に達する。

表23　友の行為を悪いと感じるか

（%）

	悪い			悪くない	
	とても	かなり	少し	あまり	ぜんぜん
他人のカサを無断でさして帰る	54.6	28.9	11.5	2.3	2.7
放置してある他人の自転車に乗る	52.0	27.8	13.9	3.3	3.0
他人の体育館ばきを無断で使用する	46.4	29.9	16.1	3.8	3.8
自室でタバコをすう	41.2	27.2	16.6	7.5	7.5
お使いにミニバイクを運転していく	34.6	29.7	22.0	7.5	6.2
授業のとき、マンガを読む	32.9	30.4	23.4	6.8	6.5
学校でアメなどを食べる	34.5	27.2	24.2	8.0	6.1
友だちの優勝を祝って酒を飲む	26.8	22.5	27.2	13.3	10.2
かるくパーマをかける	23.0	28.1	28.0	11.2	9.7
きまりより太いズボンをはく	15.4	24.0	31.4	16.3	12.9
拾った消しゴムを使う	9.2	15.3	30.4	22.3	22.8
マニキュアをつけて登校する	8.6	15.3	28.8	25.9	21.4
バスや電車に子ども料金で乗る	7.4	15.9	37.8	22.4	16.5
夜、友だちの家でおしゃべりをする	7.1	14.9	26.0	26.3	25.7
自転車の二人乗りをする	2.7	6.4	23.6	33.1	34.2

そして、**表24**の属性分析によれば、男子より女子の方が、そして、中3より中1の方が「悪い」と思っている割合が多い。

そこで、時系列を追う形で「悪い行為と思う」割合がどう変化しているのかをまとめると、**図7**（**表25**）の通りとなる。なお、この項目については、1983年に同じ調査を実施している。

	1983年（A）	今回（B）	差（A－B）
・自室で喫煙	62.8%	41.2%	21.6%
・かるくパーマ	40.8%	23.0%	17.8%
・バイクでお使い	51.1%	34.6%	16.5%
・優勝を祝って飲酒	40.3%	26.8%	13.5%

（「とても悪い」割合）

このように生徒たちの感覚は悪さを感じにくくなっているように見える。

表24　友の行為を悪いと感じるか × 属性

（%）

	全体	男子	女子	中1	中2	中3
他人のカサを無断でさして帰る	54.6	49.6	＊60.1	55.2	59.3	49.2
放置してある他人の自転車に乗る	52.0	48.1	＊56.5	49.5	57.1	49.3
他人の体育館ばきを無断で使用する	46.4	43.6	＊49.4	50.6	50.9	38.0
自室でタバコをすう	41.2	40.2	42.1	#46.9	43.5	33.6
お使いにミニバイクを運転していく	34.6	32.1	＊37.3	#38.4	35.1	30.4
授業のとき、マンガを読む	32.9	32.6	33.0	#40.4	32.9	25.6
学校でアメなどを食べる	34.5	36.5	32.4	#44.4	37.1	22.8
友だちの優勝を祝って酒を飲む	26.8	24.6	29.3	#33.6	27.2	20.3
かるくパーマをかける	23.0	22.7	23.3	23.2	24.5	21.1
きまりより太いズボンをはく	15.4	16.9	13.8	14.4	18.5	13.2
拾った消しゴムを使う	9.2	7.9	10.6	#10.4	9.8	7.5
マニキュアをつけて登校する	8.6	＊11.5	5.5	9.0	10.4	6.5
バスや電車に子ども料金で乗る	7.4	8.1	6.6	6.9	7.4	7.9
夜、友だちの家でおしゃべりをする	7.1	7.6	6.5	#10.0	8.0	3.5
自転車の二人乗りをする	2.7	3.6	1.8	3.8	1.9	2.5

「とても悪い」割合
＊は5%以上多い　#は中1＞中2＞中3

図７　友の行為を悪いと感じるか × 時系列

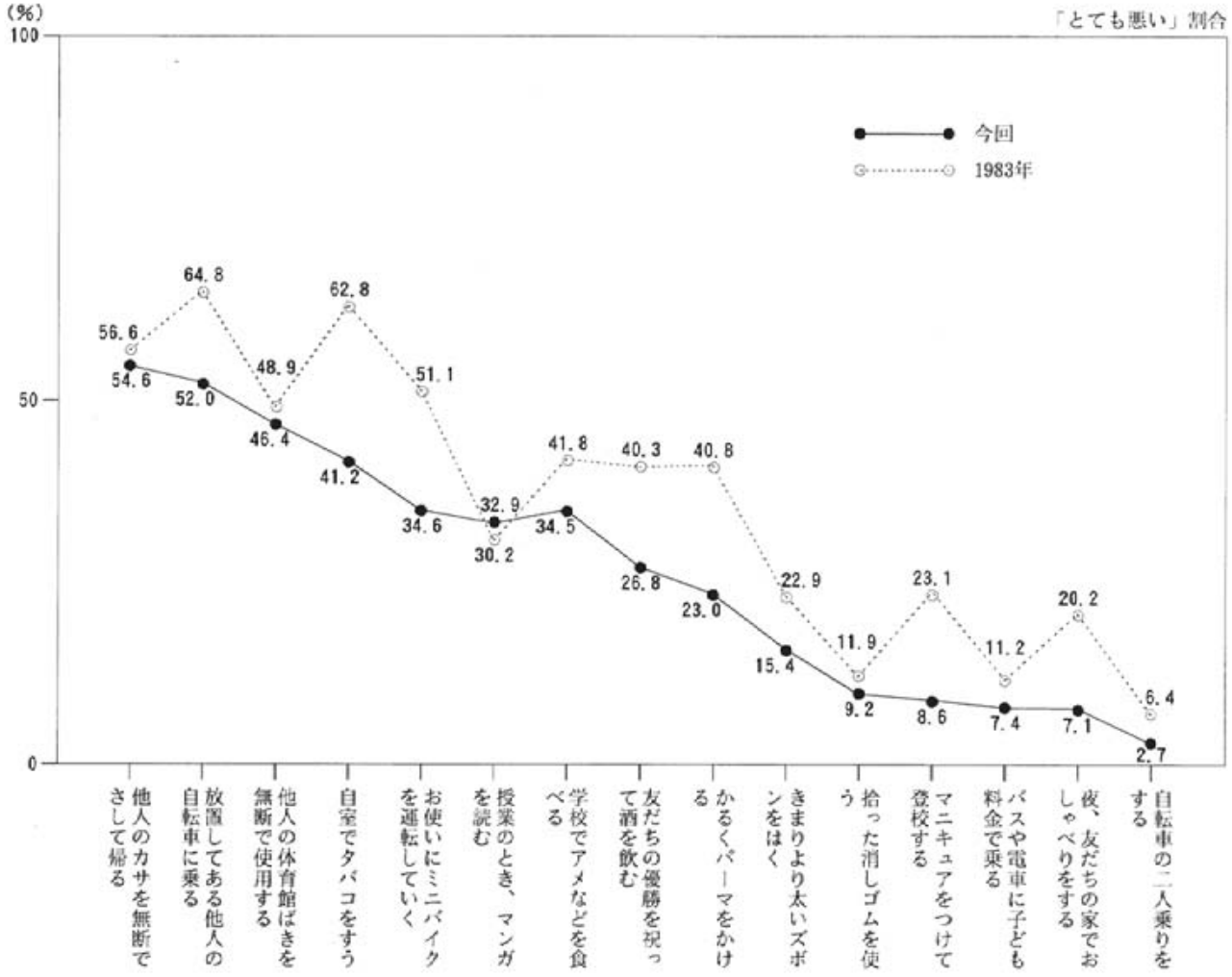


表25　友の行為を悪いと感じるか × 時系列

(%)

	とても悪い			悪くない(あまり＋ぜんぜん)	
	1983年 (A)	今回 (B)	差 (A)−(B)	1983年	今回
他人のカサを無断でさして帰る	56.6	54.6	2.0	5.8	5.0
放置してある他人の自転車に乗る	64.8	52.0	12.8	4.3	6.3
他人の体育館ばきを無断で使用する	48.9	46.4	2.5	7.1	7.6
自室でタバコをすう	62.8	41.2	21.6	9.4	15.0
お使いにミニバイクを運転していく	51.1	34.6	16.5	9.5	13.7
授業のとき、マンガを読む	30.2	32.9	− 2.7	14.1	13.3
学校でアメなどを食べる	41.8	34.5	7.3	12.7	14.1
友だちの優勝を祝って酒を飲む	40.3	26.8	13.5	21.2	23.5
かるくパーマをかける	40.8	23.0	17.8	16.5	20.9
きまりより太いズボンをはく	22.9	15.4	7.5	23.1	29.2
拾った消しゴムを使う	11.9	9.2	2.7	42.3	45.1
マニキュアをつけて登校する	23.1	8.6	14.5	33.4	47.3
バスや電車に子ども料金で乗る	11.2	7.4	3.8	33.7	38.9
夜、友だちの家でおしゃべりをする	20.2	7.1	13.1	30.1	52.0
自転車の二人乗りをする	6.4	2.7	3.7	55.5	67.3

そこで、校則についての評価を求めると**表26**の通りとなる。最大値に着目してみよう。

・「必要なきまり」だと思う

一礼して職員室に入る	51.0%
体操服は指定のもの	47.2%
髪を染めてはいけない	43.5%
登校は始業30分～5分前に	39.1%
男子のワイシャツは白	38.3%

・「無意味だがきまりは守るべき」

学校に残るときは許可証が必要	29.9%
チャイムが鳴ったら着席する	32.2%
通学カバンにワッペンをはらない	33.2%
男子のズボンは規定の幅	32.3%

・「無意味だからきまりは守らなくてもよい」

男子のつめえりのホックはきちんと	33.8%

・「きまりをなくすべき」

通学カバンは指定のもの	33.8%
男子の靴下は紺か黒	47.8%
女子の髪は肩にふれない	48.6%
女子の髪をしばるゴムは黒	56.8%
男子の髪は丸刈り	70.2%

たしかに、生徒たちが「なくすべき」と考えている項目はかなり妥当なものだし、「守るつもり」の項目の中にも、そこまで規定しなくてもと思われる項目が見受けられる。そうした意味では、生徒たちはかなりの校則を守るつもりという気持ちを持っているようにみられる。

表26　校則への感じ方

（%）

	必要なきまり	無意味だが守るべき	無意味だから守らなくてもよい	なくすべき
一礼して職員室に入る	51.0	28.0	10.3	10.7
体操服は指定のもの	47.2	32.7	8.1	12.0
髪を染めてはいけない	43.5	25.3	14.6	16.6
登校は始業30分～5分前に	39.1	32.3	12.1	16.5
男子のワイシャツは白	38.3	36.2	13.0	12.5
学校に残るときは許可証が必要	28.9	29.9	19.4	21.8
チャイムが鳴ったら着席する	23.7	32.2	23.5	20.6
通学カバンにワッペンをはらない	20.4	33.2	26.8	19.6
通学カバンは指定のもの	16.1	29.4	20.7	33.8
男子のズボンは決められた幅	15.3	32.3	27.5	24.9
男子のつめえりのホックはきちんと	8.2	27.2	33.8	30.8
男子の靴下は紺か黒	6.6	18.6	27.0	47.8
女子の髪は肩にふれない	5.9	18.8	26.7	48.6
女子の髪をしばるゴムは黒	2.9	13.2	27.1	56.8
男子の髪は丸刈り	1.5	10.4	17.9	70.2

◯は最大値

そして、**表27**の属性分析では中３より中１の生徒が校則を守ろうという気持ちが強い。また、**表28**によれば、「学校に来るのが楽しい」と思っている生徒は校則を守ろうとしている。さらに、いじめとの関連でいえば、いじめられたことが多い生徒の方が校則を守

表27　校則への感じ方 × 属性

（%）

	全体	男子	女子	中１	中２	中３
一礼して職員室に入る	51.0	49.0	53.2	57.9	45.4	50.1
体操服は指定のもの	47.2	48.0	46.3	51.3	45.1	45.4
髪を染めてはいけない	43.5	44.4	42.4	#50.0	42.3	38.6
登校は始業30分～５分前に	39.1	36.4	＊42.0	#43.5	39.1	34.9
男子のワイシャツは白	38.3	39.6	36.7	#41.6	37.9	35.6
学校に残るときは許可証が必要	28.9	28.3	29.6	#35.6	30.7	20.8
チャイムが鳴ったら着席する	23.7	22.4	25.1	#31.5	22.2	18.1
通学カバンにワッペンをはらない	20.4	＊25.1	15.2	#25.4	18.8	17.3
通学カバンは指定のもの	16.1	17.0	15.2	17.7	15.1	15.8
男子のズボンは決められた幅	15.3	16.4	14.1	16.9	13.1	16.1
男子のつめえりのホックはきちんと	8.2	8.5	8.0	#10.9	7.3	6.8
男子の靴下は紺か黒	6.6	7.0	6.0	8.9	5.2	5.8
女子の髪は肩にふれない	5.9	5.4	6.5	# 7.2	6.0	4.7
女子の髪をしばるゴムは黒	2.9	3.4	2.4	# 4.5	2.8	1.6
男子の髪は丸刈り	1.5	1.8	1.2	# 2.0	1.8	0.7

「必要なきまり」と思う割合
＊は５%以上多い　#は中１＞中２＞中３

ると答えている。いじめと校則との間に何らかの関連が存在するのを示唆するデータだが、この問題はもう少し後に改めてふれることにしたい。

表28　校則への感じ方 × 属性

(%)

	通学の楽しさ			いじめられた		
	かなり楽しい	ふつう	やや楽しくない	何度もある	少しある	まったくない
一礼して職員室に入る	$52.9	50.4	32.8	#55.8	54.8	48.1
体操服は指定のもの	$51.8	47.0	34.9	52.9	45.4	49.3
髪を染めてはいけない	$44.6	40.3	32.6	#49.0	43.8	40.5
登校は始業30分～5分前に	$44.9	35.1	31.7	#43.1	40.4	38.8
男子のワイシャツは白	$40.3	35.4	33.1	41.2	37.2	41.1
学校に残るときは許可証が必要	32.0	24.8	28.8	27.9	31.2	28.5
チャイムが鳴ったら着席する	24.5	25.8	17.2	#27.9	26.1	21.0
通学カバンにワッペンをはらない	$21.7	20.9	16.4	#27.9	20.4	19.7
通学カバンは指定のもの	16.7	18.2	10.3	17.5	15.8	17.3
男子のズボンは決められた幅	14.7	15.5	9.6	#26.0	15.8	15.2
男子のつめえりのホックはきちんと	$ 7.7	6.2	5.2	#17.6	9.5	7.1
男子の靴下は紺か黒	6.1	5.2	6.2	14.4	6.3	6.7
女子の髪は肩にふれない	5.5	4.0	6.7	10.6	6.1	7.6
女子の髪をしばるゴムは黒	2.9	1.2	4.8	5.8	2.6	3.4
男子の髪は丸刈り	1.1	1.6	3.7	4.9	1.5	1.6

「必要なきまり」と思う割合
$は「通学の楽しさ」が「かなり楽しい」＞「ふつう」＞「やや楽しくない」
#は「いじめられた」が「何度もある」＞「少しある」＞「まったくない」

そして、校則に対する評価を1986年と対比させてまとめると**図8（表29）**の通りとなる。図中の数値は、「必要なきまり」と「無意味だが守るべき」を合わせたもので、理由はともあれ、規則を守るつもりの割合を示している。1986年と比べ、守る割合が大きく減った項目は右の通りである。

	1986年（A）	今回（B）	差（A－B）
・男子の髪は丸刈り	38.1%	11.9%	26.2%
・女子の髪をしばるゴムは黒	36.0%	16.1%	19.9%
・女子の髪は肩にふれない	43.4%	24.7%	18.7%

（「必要なきまり」＋「無意味だが守るべき」の割合）

「丸刈り」や「髪のゴムは黒」などの校則は廃止になっている学校は少なくないと思われるが、そうした校則に批判的な生徒は少なくない。

図８　校則への感じ方 × 時系列

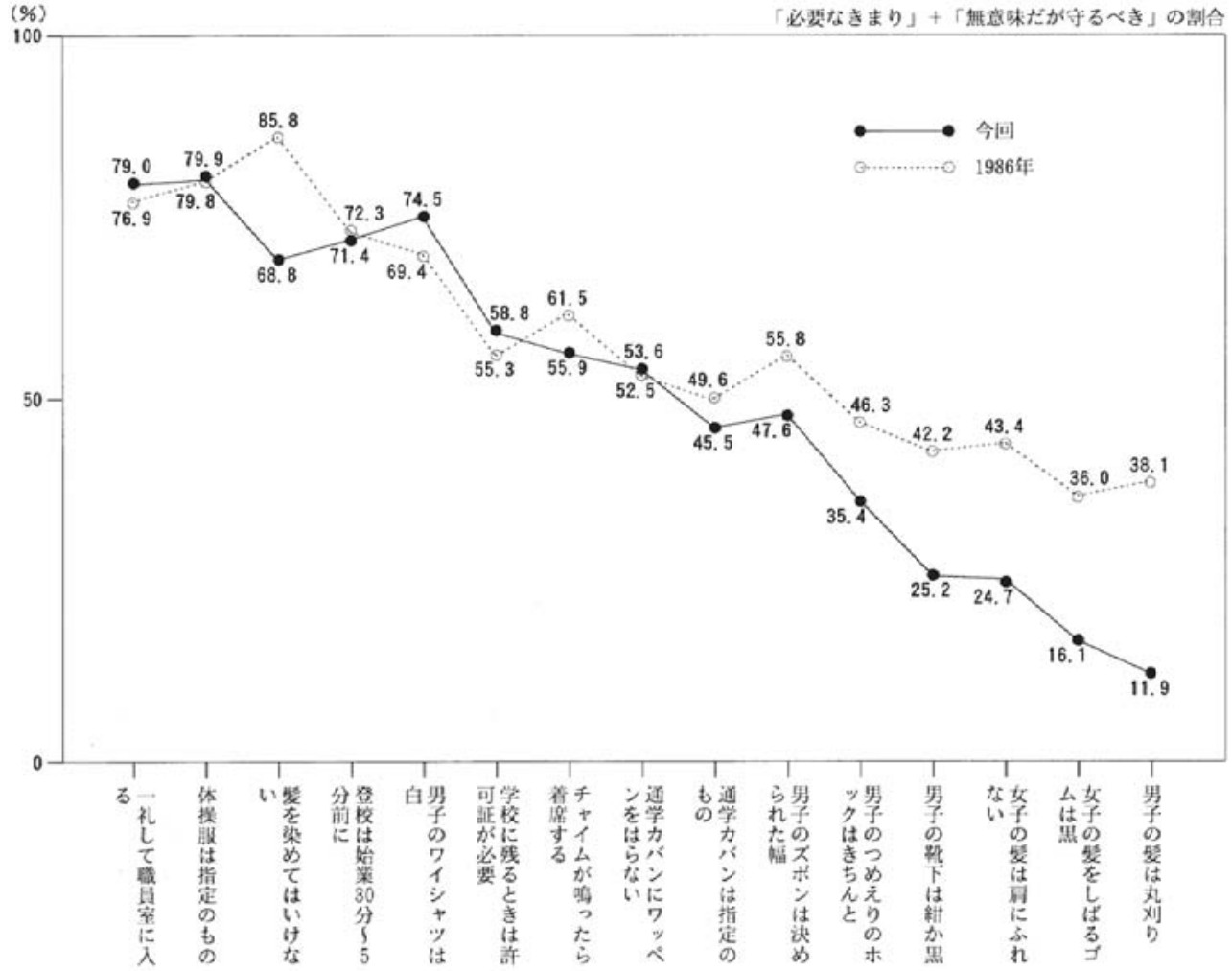


表29　校則への感じ方 × 時系列

（%）

	1986年			今回（B）	差（A）−（B）
	必要なきまり	無意味だが守るべき	小計（A）		
一礼して職員室に入る	45.0	31.9	76.9	79.0	−2.1
体操服は指定のもの	46.3	33.5	79.8	79.9	−0.1
髪を染めてはいけない	67.1	18.7	＊85.8	68.8	17.0
登校は始業30分〜5分前に	35.6	36.7	72.3	71.4	0.9
男子のワイシャツは白	35.5	33.9	69.4	＊74.5	−5.1
学校に残るときは許可証が必要	23.9	31.4	55.3	58.8	−3.5
チャイムが鳴ったら着席する	25.0	36.5	＊61.5	55.9	5.6
通学カバンにワッペンをはらない	22.7	29.8	52.5	53.6	−1.1
通学カバンは指定のもの	19.9	29.7	49.6	45.5	4.1
男子のズボンは決められた幅	20.6	35.2	＊55.8	47.6	8.2
男子のつめえりのホックはきちんと	15.2	31.1	＊46.3	35.4	10.9
男子の靴下は紺か黒	13.1	29.1	＊42.2	25.2	17.0
女子の髪は肩にふれない	14.3	29.1	＊43.4	24.7	18.7
女子の髪をしばるゴムは黒	10.1	25.9	＊36.0	16.1	19.9
男子の髪は丸刈り	7.3	30.8	＊38.1	11.9	26.2

「必要なきまり」＋「無意味だが守るべき」の割合
＊は5%以上多い